

【転出入者アンケート調査】

a) 転入者アンケートの結果

①回答者の属性

回答者の転入時の状況は、「単身赴任」と「家族で転入」が両者とも31%で最も多かった(図3-58)。家族構成は、「単身家族(49%)」が最も多く、次いで「夫婦(23%)」、「二世世代(子育て)(20%)」であった(図3-59)。職業(転入後)は、「公務員(38%)」が最も多く、次いで「会社員・団体職員(27%)」、「無職(14%)」、「パート・アルバイト(12%)」であった(図3-60)。

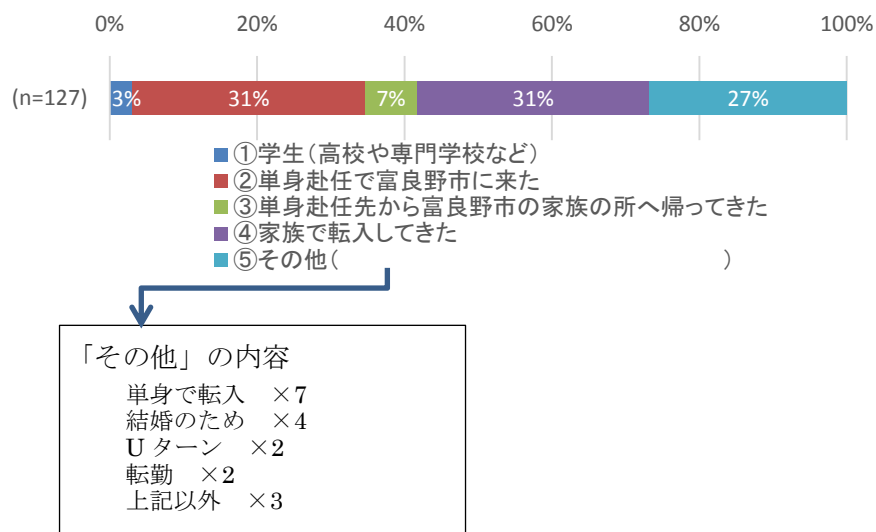


図 3-58. 転入時の状況

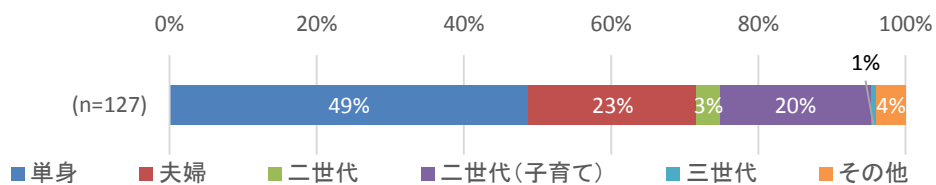


図 3-59. 転入者の家族構成

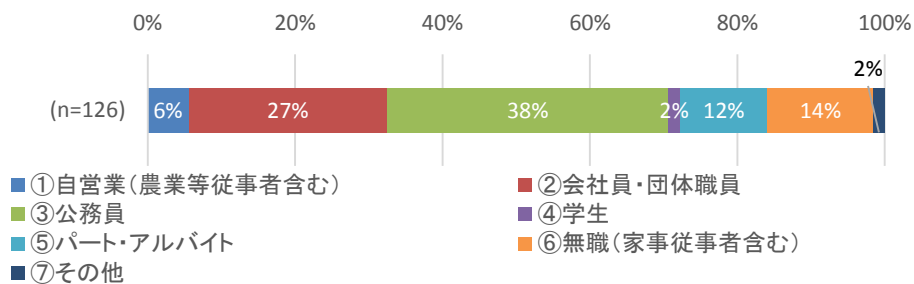


図 3-60. 転入者の職業(転入後)

回答者の年齢は、「20-29歳(28%)」が最も多く、次いで「30-39歳(26%)」、「50-59歳(20%)」「40-49歳(18%)」であった(図3-61)。年収は、「200万円以上～400万円未満(30%)」が最も多く、次いで「400万円以上～600万円未満(24%)」であった(図3-62)。勤務先は、65%が「富良野市」であったが、「上富良野町(13%)」、「中富良野町(4%)」「南富良野町(2%)」や「その他」として旭川市、美瑛町、芦別市、札幌市、小樽市、も確認された(図3-63)。

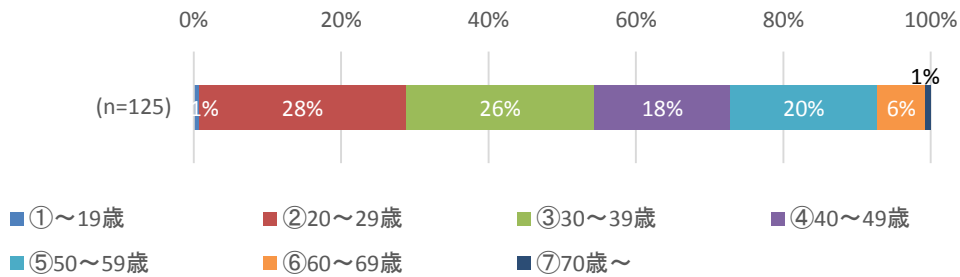


図3-61. 転入者(世帯主)の年齢

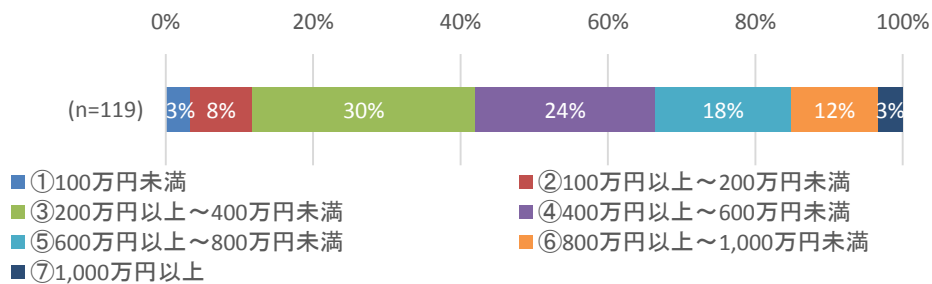
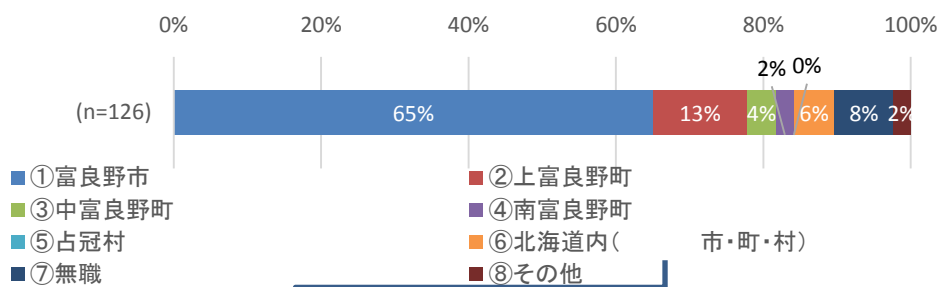


図3-62. 転入者の年収(世帯合計)



「⑥北海道内」の内容
 旭川市×2 美瑛町×1
 小樽市×1 芦別市×1
 札幌市×1 無回答×1

図3-63. 転入者(世帯主)の勤務先または学校

②転入理由等

主な転入理由（複数回答可）は、「仕事の都合（72%）」が突出して多く、次いで「結婚のため（12%）」、「高齢のため（7%）」、「住宅の都合（購入・家賃など）（6%）」であった（図 3-64）。回答者のうち 14%が、転入前に富良野市以外の近隣市町村も転入先の候補として検討しており、具体的に検討対象となった市町村としては「上富良野町（7件）」「中富良野町（5件）」が多かった（図 3-65）。転入先として富良野市を選んだ理由は、「学校・職場に近いから（49%）」が多く、次いで「親族が住んでいたから（20%）」、「買い物が便利だから（9%）」、「住宅の条件が良かったから（9%）」、「緑や自然が豊かだったから（9%）」であった（図 3-66）。また、転入前に富良野市以外も考えた人の「富良野市を選んだ理由」に着目すると、「学校職場に近いから」が最も多いものの、「親族が住んでいたから」は少なく、「買い物が便利だから」、「住宅の条件が良かったから」、「緑や自然が豊かだったから」も多い結果であった。

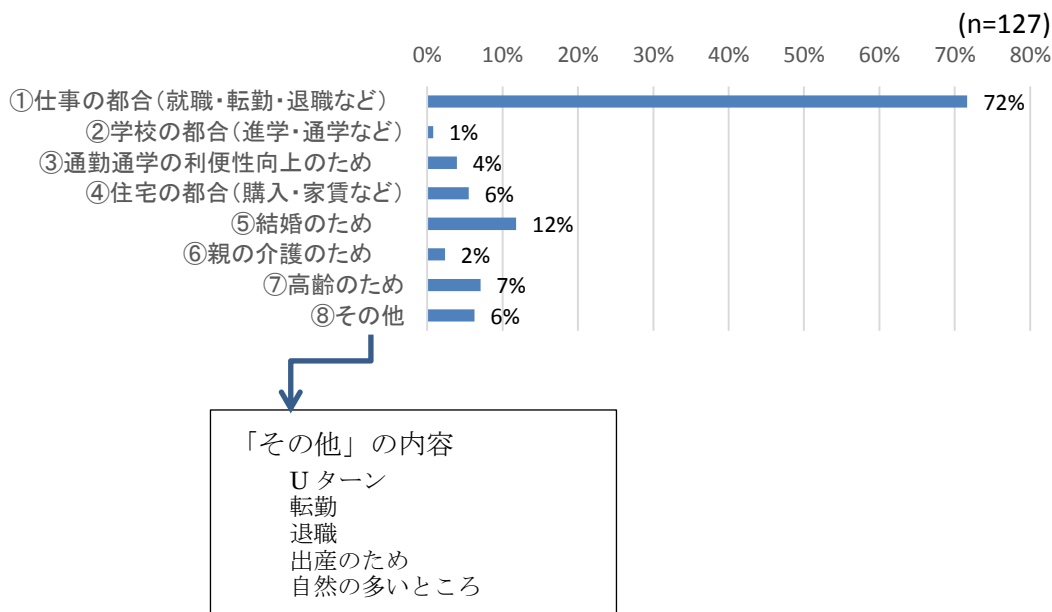
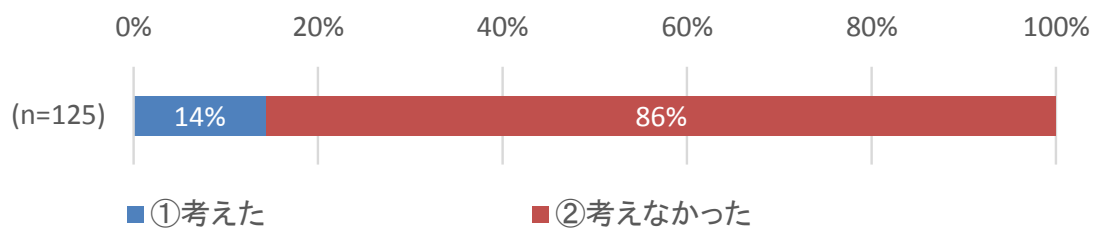


図 3-64. 転入の主な理由（複数回答可）



「①考えた →具体的な市町村（ ）」の内容

- 上富良野町×7
- 中富良野町×5
- 美瑛町×2
- 旭川市×2
- 芦別市×1
- 倶知安町×1
- 小樽市×1
- 軽井沢×1
- 勤務先が全道×1

図 3-65. 富良野市以外の転入先を考えたか

(n=127)

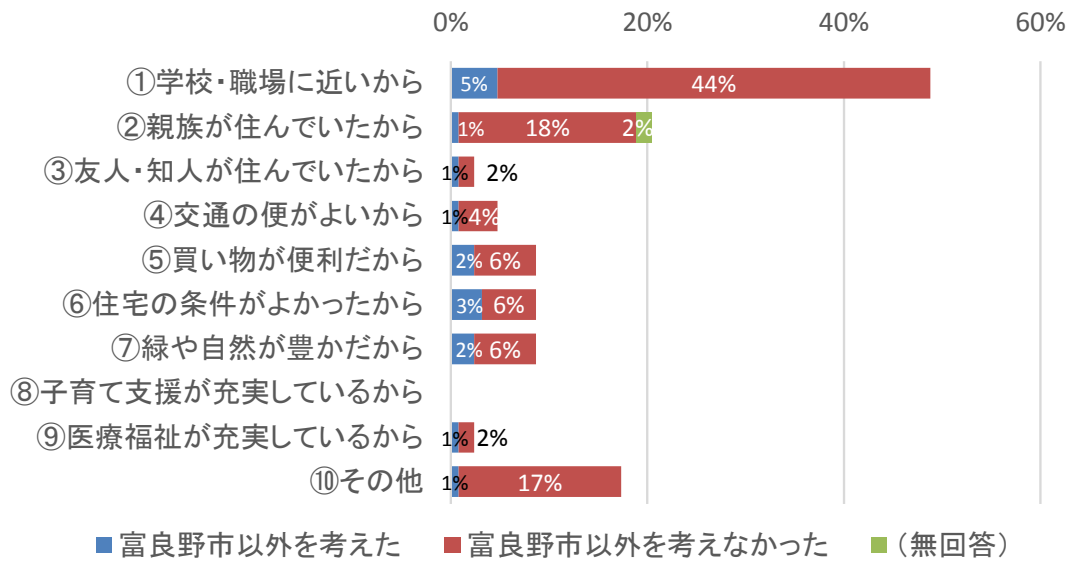


図 3-66. 富良野市を選んだ理由（複数回答可）

回答者の82%が道内から、16%が道外から、2%が海外からの転入であった（図3-67）。道内からの転入者の転入元としては、旭川が最も多く、次いで札幌市、上富良野町、中富良野町、南富良野町であった（図3-68）。道外からの転入者の転入元は、東京都が最も多く、次いで神奈川県、茨城県、長野県であった（図3-69）。転入元別に年齢層を見ると、札幌市および富良野圏域からの転入者は20代が最も多いのに対し、旭川市からの転入者は30代が最も多い（図3-70）。

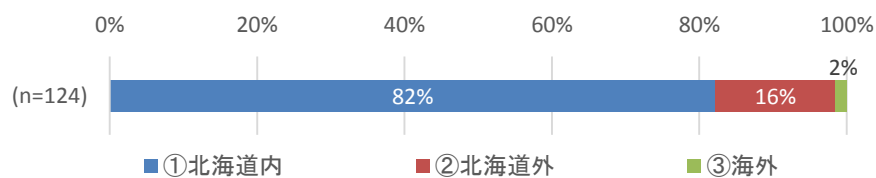


図3-67. 転入元

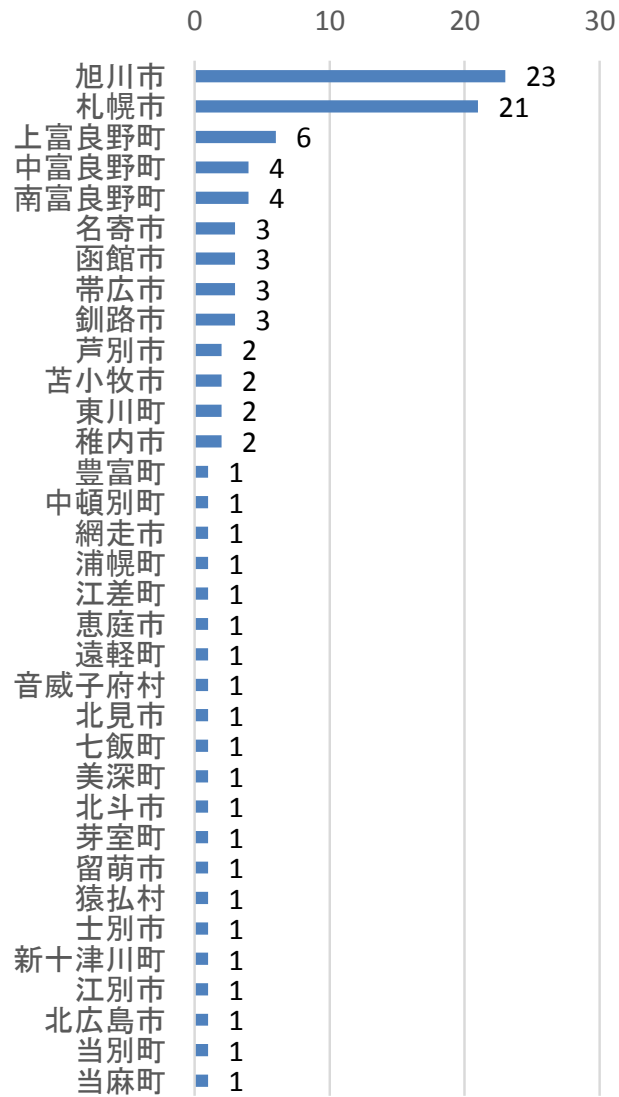


図 3-68. 転入元 (道内・市町村別)

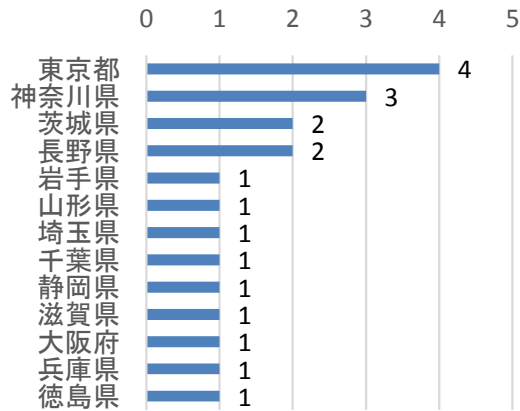


図 3-69. 転入元 (道外・都道府県別)

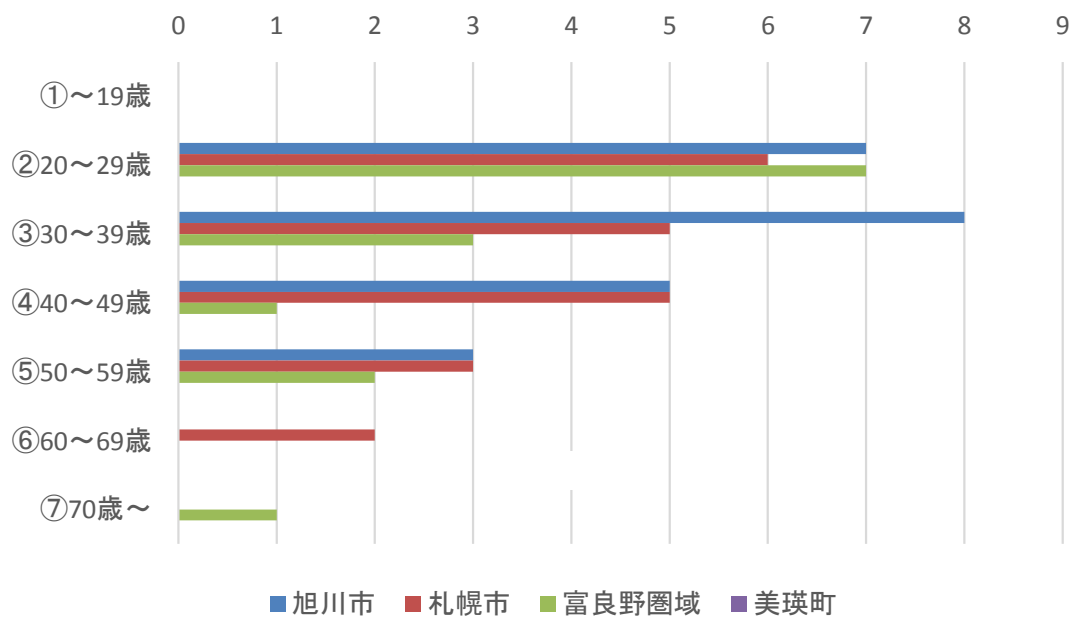


図 3-70. 転入元別の年齢構成

③転入後の住まい等

転入後の住まいは「賃貸アパート(43%)」が最も多く、次いで「持家戸建て(15%)」、「社宅(15%)」、「公営住宅(12%)」であった(図 3-71)。「賃貸アパート」および「公営住宅」に住んでいる回答者の家賃は、「5 万円以上 6 万円未満(34%)」が最も多く、次いで「6 万円以上 7 万円未満 (24%)」、「1 万円以上 2 万円未満(13%)」、「3 万円以上 4 万円未満(11%)」であった(図 3-72)。住まい探しの際の情報源としては「不動産業者(40%)」、「インターネット(29%)」が多かったが、「親せき・知人の紹介(11%)」や「勤務先が手配(その他として回答)」なども見られた(図 3-73)。

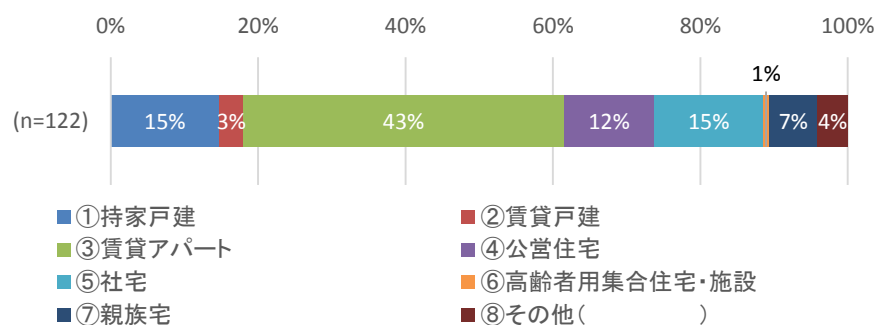


図 3-71. 転入後の住まい

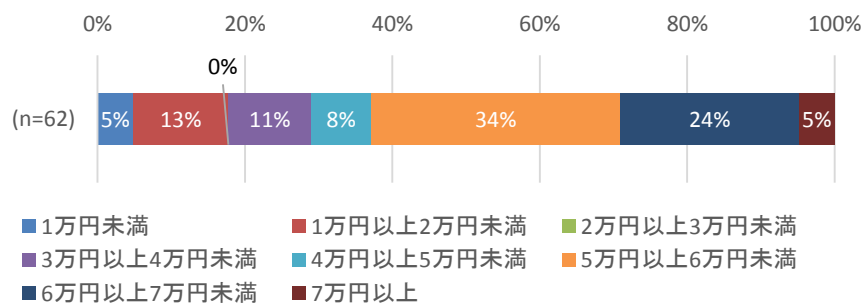


図 3-72. 転入後の家賃

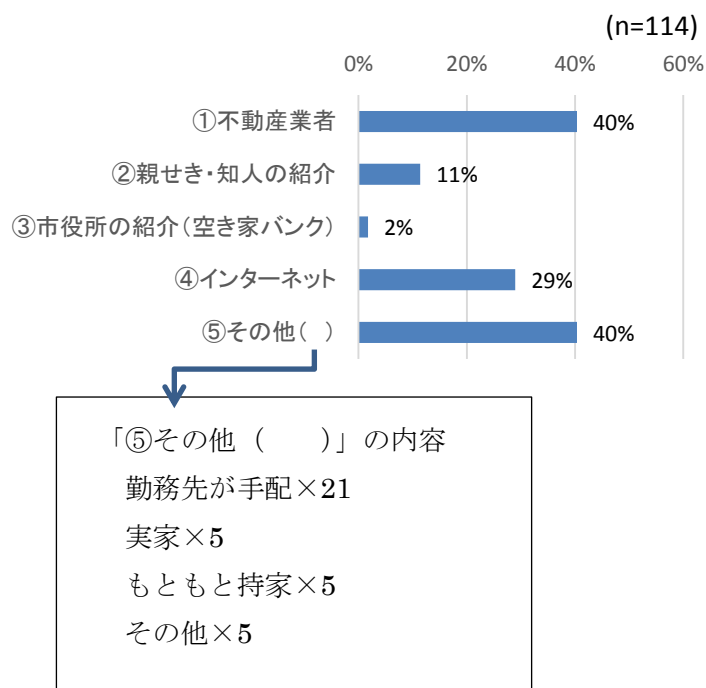


図 3-73. 住まい探しの際の情報源

④転入前に欲しかった情報、転入時に困ったこと

転入時に欲しかった情報としては、「住宅の情報（46%）」が多く、次いで「町内会・近所づきあいなどの実態（20%）」、「医療費の情報(14%)」、「幼稚園・保育所の情報(13%)」、「学校などの教育環境（10%）」であった（図 3-74）。転入の際に困ったこと（自由記述）としては、住宅に関する内容（14人）、ゴミの分別に関する内容（13人）、生活利便性に関する内容（7人）、インターネット等通信環境に関する内容（4人）がそれぞれ複数の回答者から指摘された。

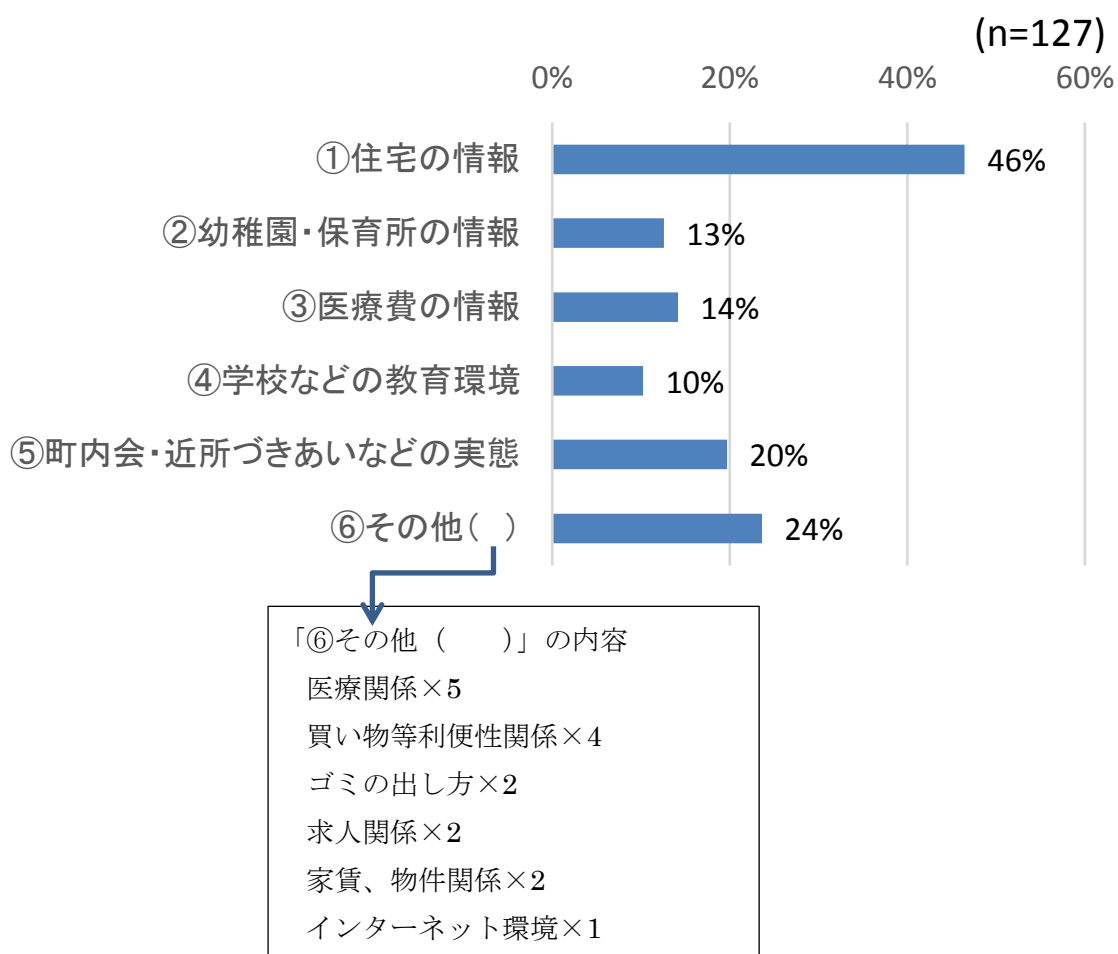


図 3-74. 転入前に欲しかった情報

b) 転出者アンケートの結果

①回答者の属性

回答者の転出時の状況は、「家族で転出 (35%)」が最も多く、次いで「単身赴任で富良野市から出た(16%)」、「学生 (9%)」、「富良野市に単身赴任していたが家族の元へ帰った(9%)」であった(図 3-75)。この他、「その他」の中で「就職・転職 (8名)」、「結婚のため (6名)」も確認された。家族構成は、「単身家族(50%)」が最も多く、次いで「夫婦 (24%)」、「二世世代 (子育て) (18%)」であった(図 3-76)。

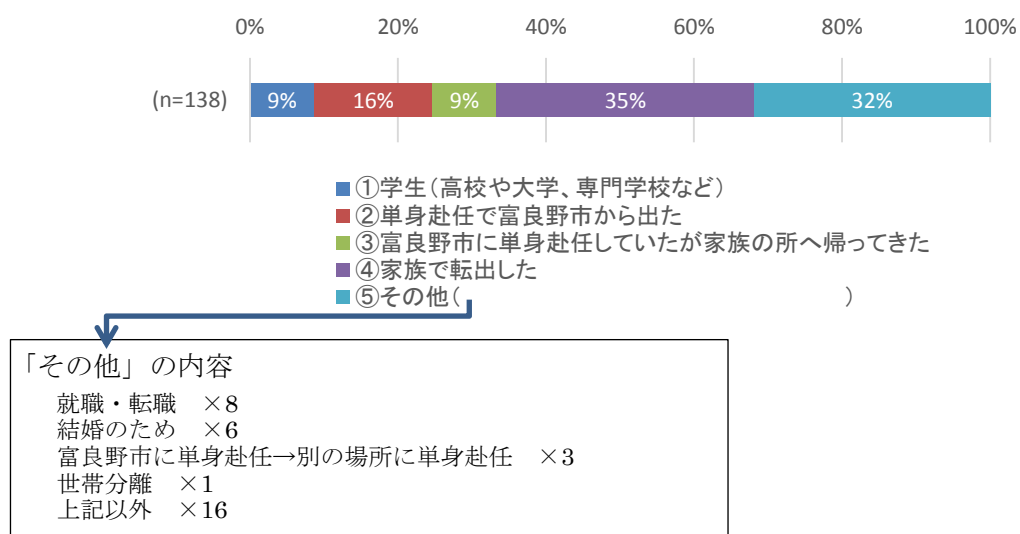


図 3-75. 転出時の状況

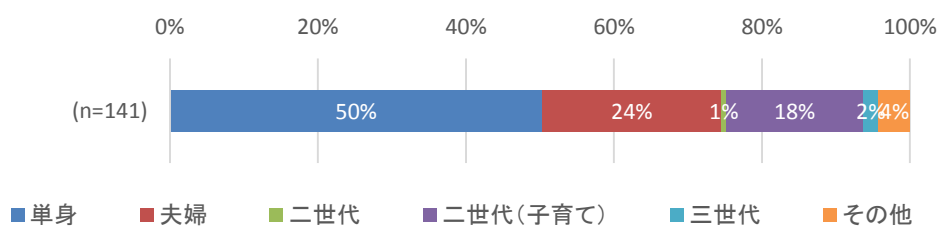


図 3-76. 転出者の家族構成

回答者の職業（転出前）は、「公務員（37%）」が最も多く、次いで「会社員・団体職員（35%）」、「パート・アルバイト(9%)」、「学生(8%)」、「無職（7%）」であった（図 3-77）。年齢は、「20-29 歳（24%）」が最も多く、次いで「30-39 歳(22%)」、「40-49 歳(21%)」、「50-59 歳(19%)」であった（図 3-78）。年収は、「200 万円以上～400 万円未満(29%)」が最も多く、次いで「600 万円以上～800 万円未満（24%)」、「400 万円以上～600 万円未満（22%)」であった（図 3-79）。転出前の住まいは、「賃貸アパート(38%)」が最も多く、次いで「実家（18%)」、「社宅(18%)」、「持家戸建て(10%)」であった（図 3-80）。

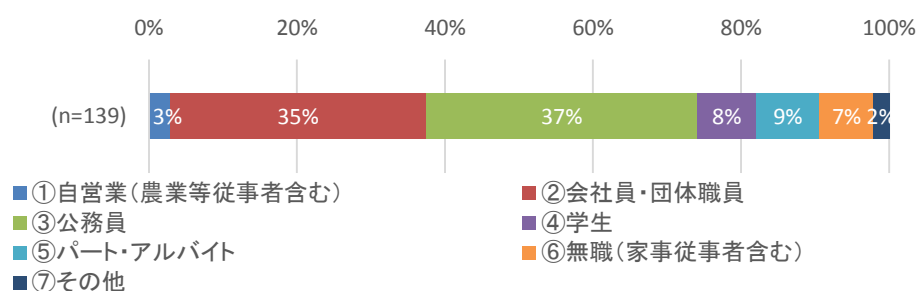


図 3-77. 転出者（世帯主）の職業

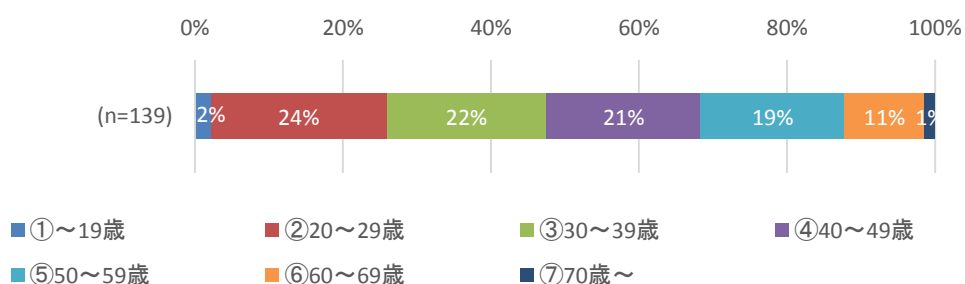


図 3-78. 転出者（世帯主）の年齢

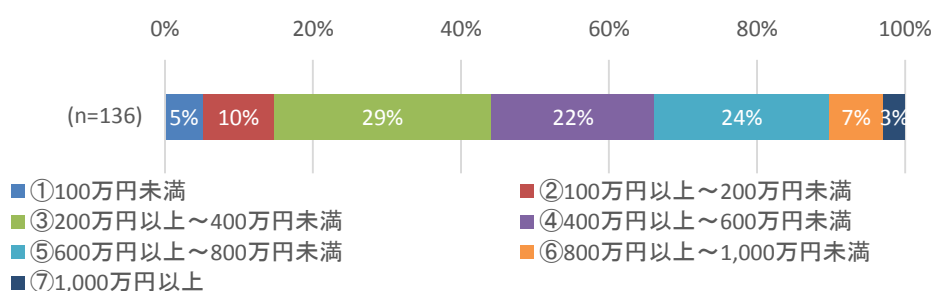


図 3-79. 転出者の年収（世帯合計）

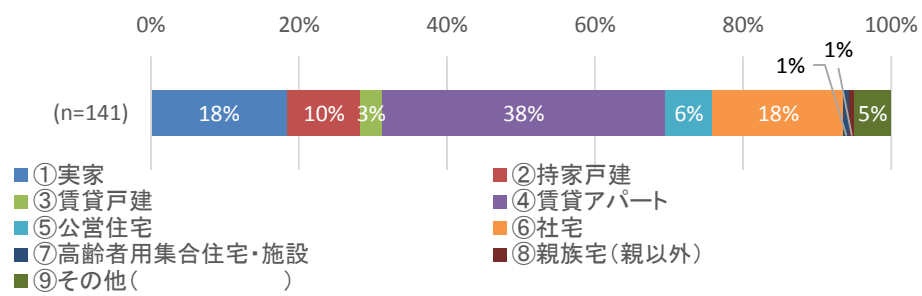


図 3-80. 転出前の住まい

②転出理由等

転出のきっかけは、「仕事の都合（74%）」が突出して多く、次いで「結婚のため（11%）」、「学校の都合（進学・通学など）（6%）」、「住宅の都合（購入・家賃など）（6%）」であった（図 3-81）。転入先として現在住んでいる市町村を選んだ理由（複数回答可）は、「学校・職場に近いから（50%）」が多く、次いで「親族が住んでいたから（18%）」、「買い物が便利だから（13%）」、「交通の便がよいから（12%）」、「住宅の条件が良かったから（11%）」であった（図 3-82）

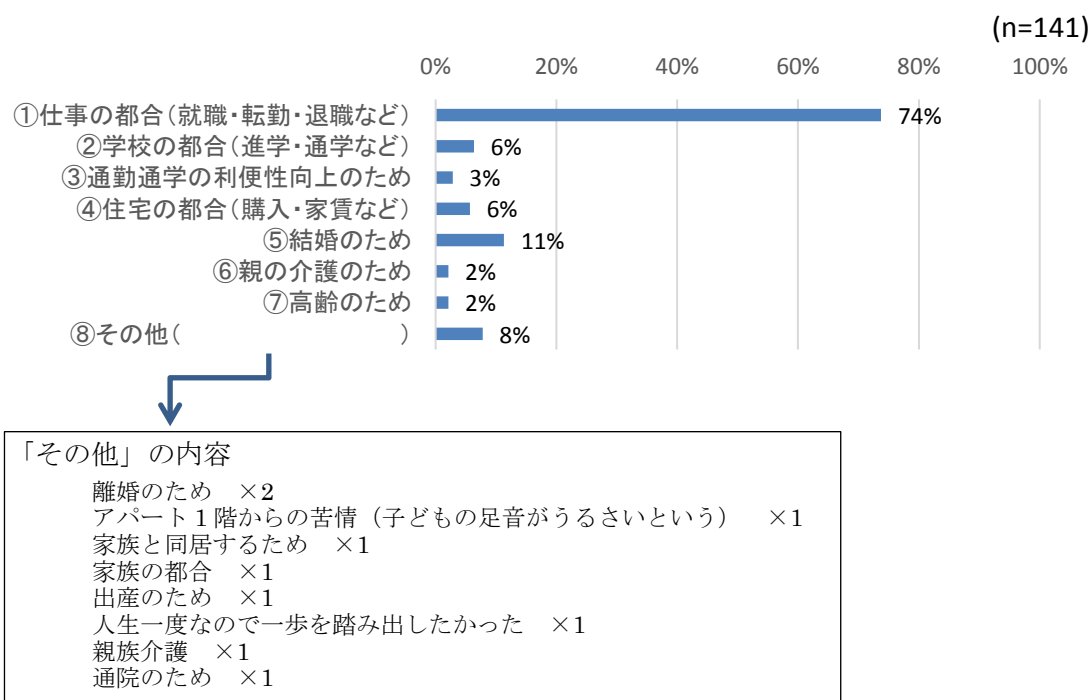


図 3-81. 転出のきっかけ

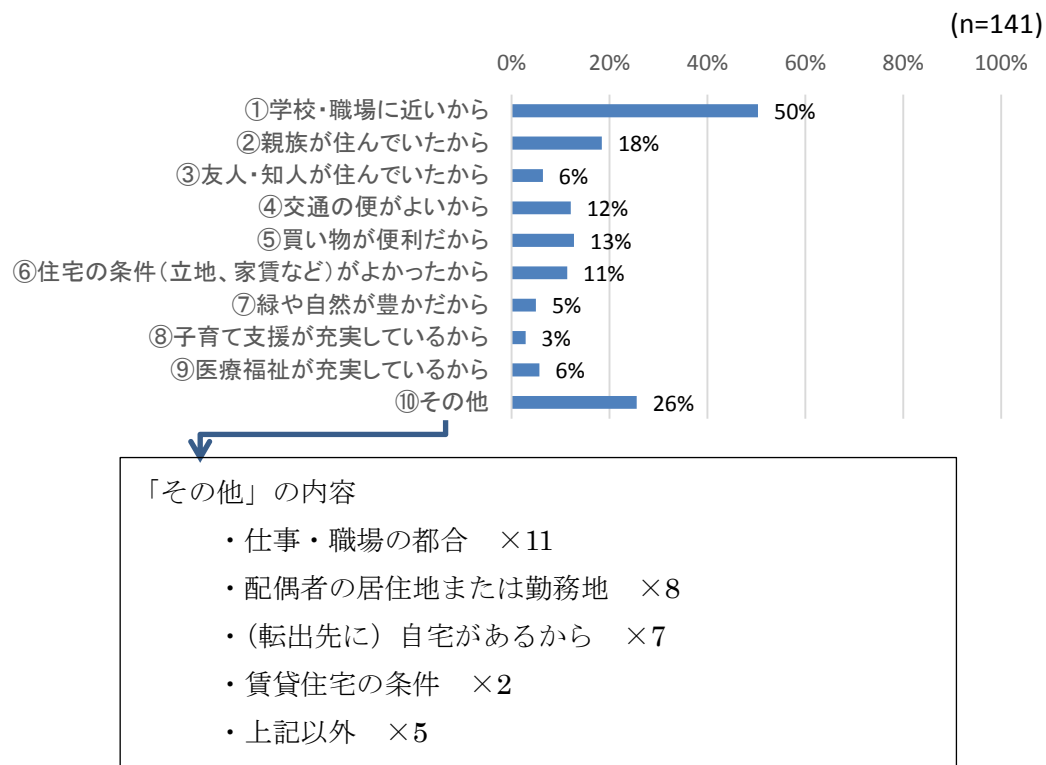


図 3-82. 転出先の市町村を選んだ理由（複数回答可）

回答者の91%が道内へ、9%が道外へそれぞれ転出していた（図3-83）。道内の転出先としては、旭川が最も多く、次いで札幌市、上富良野町、美瑛町、中富良野町、帯広市、函館市であった（図3-84）。道外への転出先は、東京都が最も多く、次いで兵庫県であった（図3-85）。転出先別に年齢層を見ると、富良野圏域および美瑛町への転出は30代にピークがあるのに対し、旭川市は20代と60代に2つのピークが見られた。札幌市への転出は、幅広い世代に渡り、明確なピークが見えない（図3-86）。

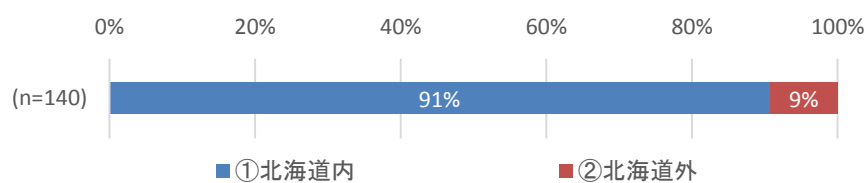


図3-83. 転出先



図 3-84. 転出先（道内・市町村別）

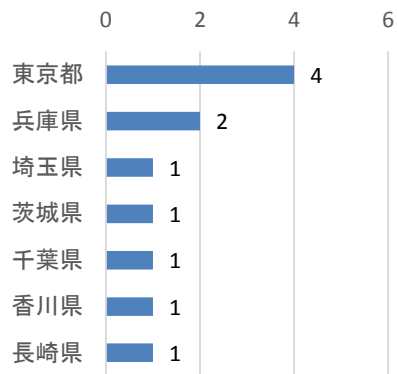


図 3-85. 転出先（道外・都道府県別）

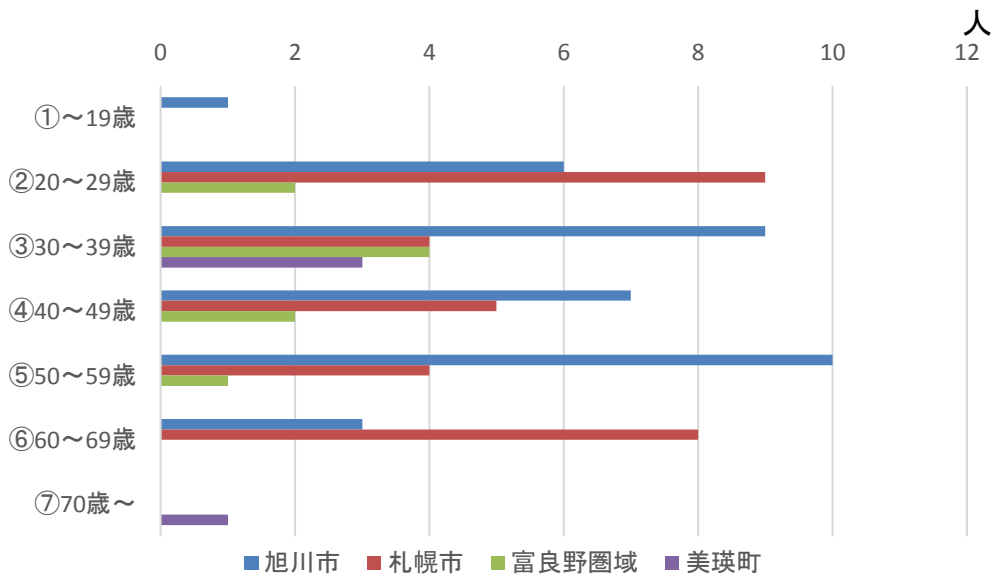
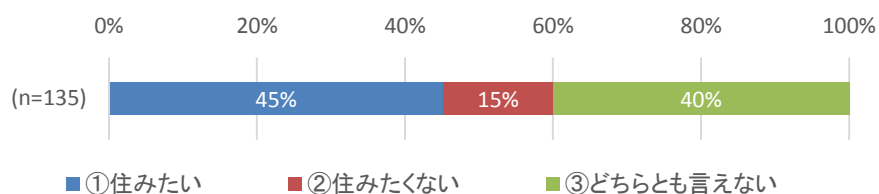


図 3-86. 転出先別の年齢構成

③転出者から見た富良野市に対する評価

「また富良野市に住みたいと思うか」の問いに対し、「住みたい」が45%で最も多く、「どちらとも言えない」が40%、「住みたくない」は15%であった（図3-87）。



※理由の回答率： 60%（84人/141人）

【「①住みたい」理由】

※「①住みたい」と回答した61人中、59人が理由を回答

※以下は、2人以上が共通して指摘した要素を抽出し、各要素の回答数をカウント

- ・生活する上で困らない程度の利便性 ×20
- ・自然豊か、環境が良い ×15
- ・生まれ育ったまち、慣れ親しんだまち ×15
- ・住み心地が良い ×13
- ・食べ物がおいしい ×8
- ・人が温かい、親切 ×7
- ・持ち家がある、親族がいる ×6
- ・スキー場が近い ×2
- ・好きなまち ×2

【「②住みたくない」理由】

※「②住みたくない」と回答した20人中、19人が理由を回答

※以下は、2人以上が共通して指摘した要素を抽出し、各要素の回答数をカウント

- ・物価が高い ×4
- ・不便 ×3
- ・住宅事情 ×3
- ・ゴミの分別 ×2
- ・水道料金が安い ×2
- ・お店が閉まるのが早い ×2
- ・観光にはよいが普段の生活は大変 ×2
- ・市民にやさしくない ×2

図3-87. また富良野市に住みたいと思うか

富良野市の「好きなところ」「嫌いなところ」を自由記述で聞いた結果について、内容を解読し、カテゴリ分けして集計した。このとき、意味や趣旨が不明瞭な記述は集計からは除外した。「富良野市の好きなところ」としては、「自然豊、環境」に関する記述をした回答者が51名、次いで「観光（23名）」、「利便性（22名）」、「食の良さ（22名）」、「人の良さ（22名）」であった（表3-3）。一方、「富良野市の嫌いなところ」としては、「利便性」に関する記述をした回答者が41名、次いで「気候（13名）」、「生活コスト（12名）」であった（表3-4）。なお、好きなところ、嫌いなところ両方で「利便性」に関する記述は上位となっているが、その内容は大きく異なっていた。「嫌いなところ」としての記載は、「若者が遊ぶところが無い」「ショッピングモールが無い」など、いわゆる都会型の生活を志向した傾向の記載が多かったのに対し、「好きなところ」としての記載は「生活する上で不便が無い」、「程よい利便性」など、のどかな暮らしとのバランスの中で利便性を評価していると思われる記載が多く見られた。

表 3-3. 転出者が考える富良野市の「好きなところ」の要素

要素	言及した回答者の数
自然、環境	51
観光	23
利便性	22
食の良さ	22
人の良さ	22
ブランド	10
故郷、慣れ親しんだまち	7
教育・子育て支援	6
ごみ	4
除雪	3
その他	9

表 3-4. 転出者が考える富良野市の「嫌いなところ」の要素

要素	言及した回答者の数
利便性	41
気候	13
生活コスト	12
ごみ	8
行政サービス	8
子育て環境	7
仕事	5
人間関係	5
その他	17

c) 転入者と転出者の比較

①属性の比較

転出入時の状況を比較すると、転入の「単身赴任で富良野市に来た(40件)」が、転出の「富良野市に単身赴任していたが家族の所へ帰った(22件)」よりも大幅に多くなっている(図3-88)。この差分としては、転出の「その他」の「別の場所にさらに単身赴任した」や、途中で家族を呼び寄せ、「家族で転出した」などが考えられる。世帯構成は、「単身」と「夫婦」で転出超過であるほかは、概ね転入と転出で近い割合となっている(図3-89)。

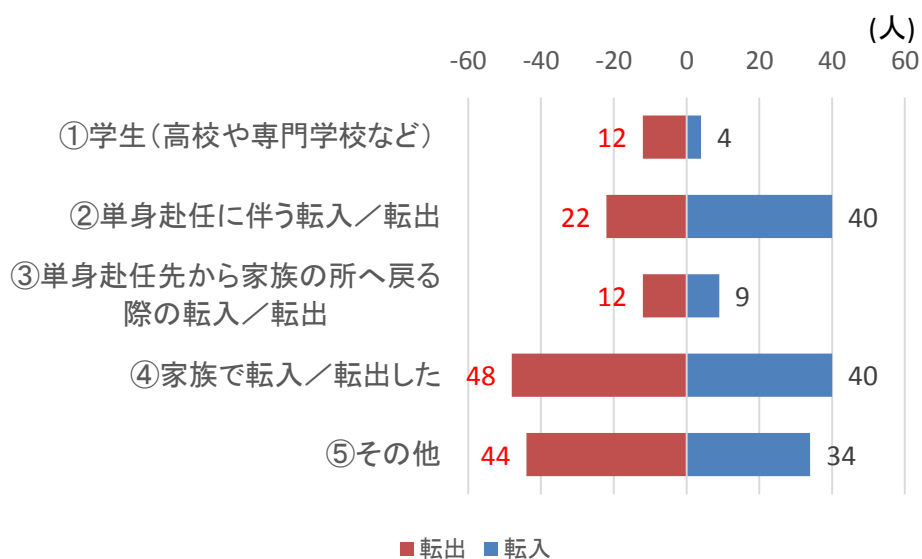


図3-88. 転入時と転出時の状況

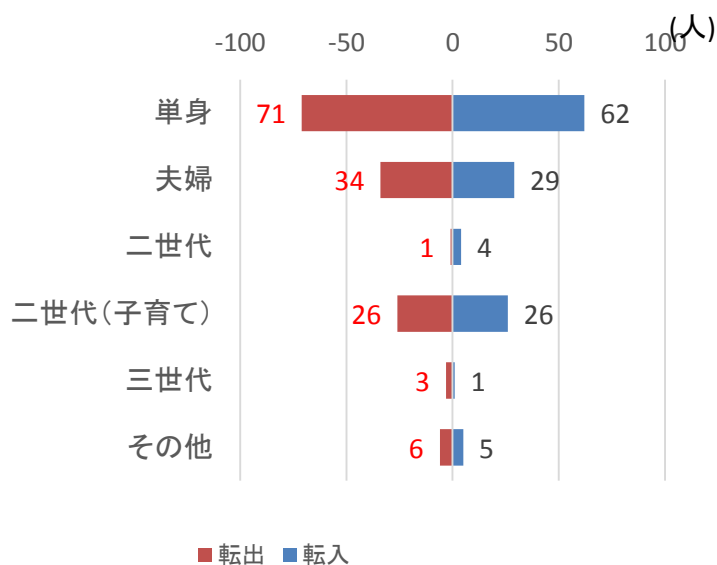


図3-89. 転入者と転出者の家族構成

転入者および転出者の職業は、概ね似た構成になっているが、「会社員・団体職員」の転出がやや多く、「自営業」、「パート・アルバイト」、「無職」の転入がやや多い(図 3-90)。年齢構成も概ね似た構成になっているが、40代以上の転出がやや高めの傾向となっている(図 3-91)。年収についても、転入と転出で概ね似た構成であったが、「600万円以上～800万円未満」の層で、やや転出が多い(図 3-92)。

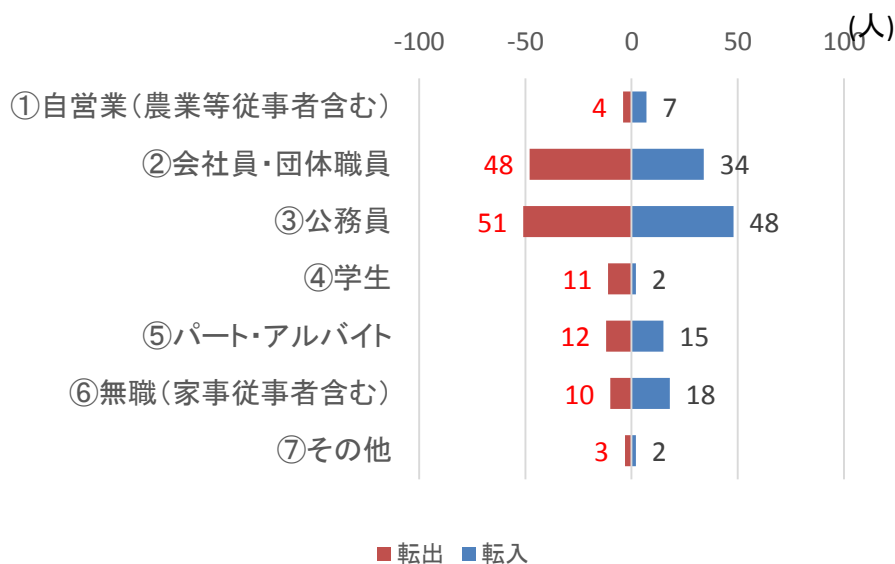


図 3-90. 転入者と転出者の職業 (いずれも富良野在住時のもの)

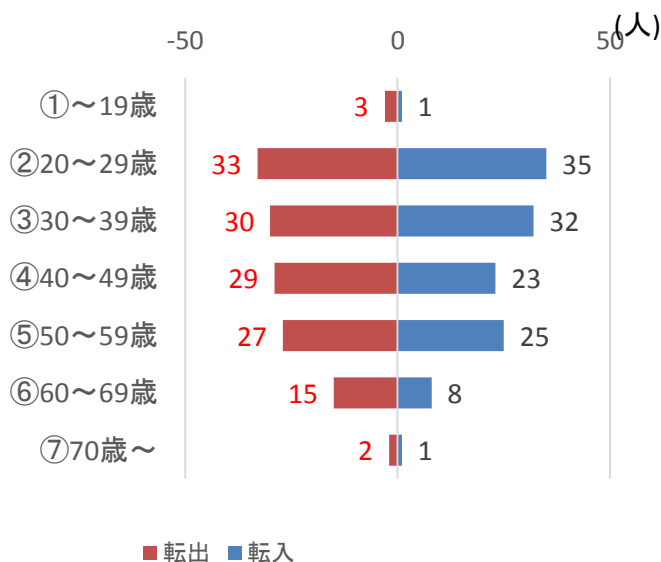


図 3-91. 転入者と転出者の年齢

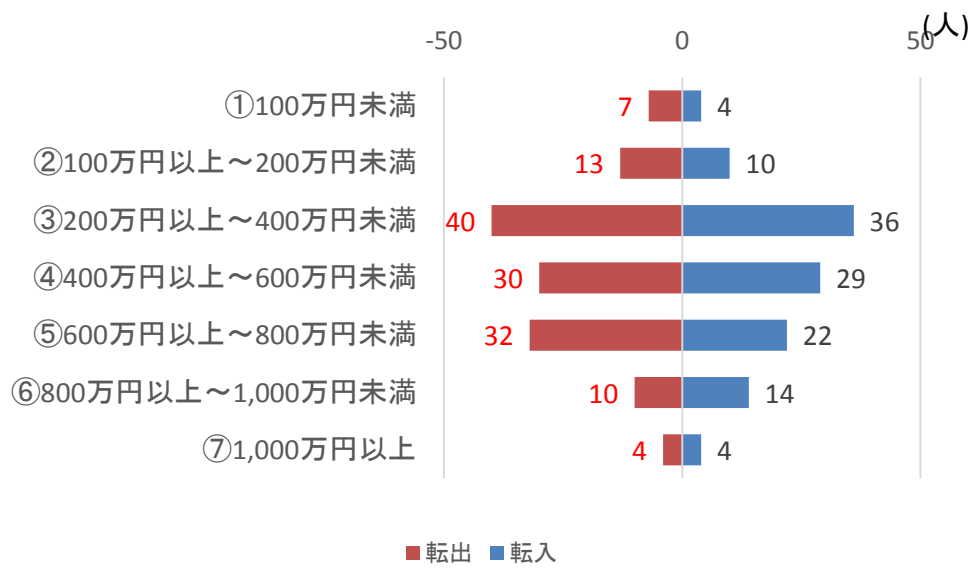


図 3-92. 転入者と転出者の年収(世帯合計)

②転出入の理由比較

転入、転出の主な理由は、全般的には転入と転出でほぼ変わらない傾向であったが、「学校の都合」が転入<転出、「高齢のため」が転入>転出の傾向が見られた（図 3-93）。転入先として富良野市を選んだ理由と、現在の転出先を選んだ理由（図 3-94）を比較すると、全体的な傾向は似ているが、細かく見ると、「交通の便がよいから」、「買い物が便利だから」、「住宅の条件がよかったから」で転入<転出、「緑や自然が豊かだから」で転入>転出の傾向がみられる。

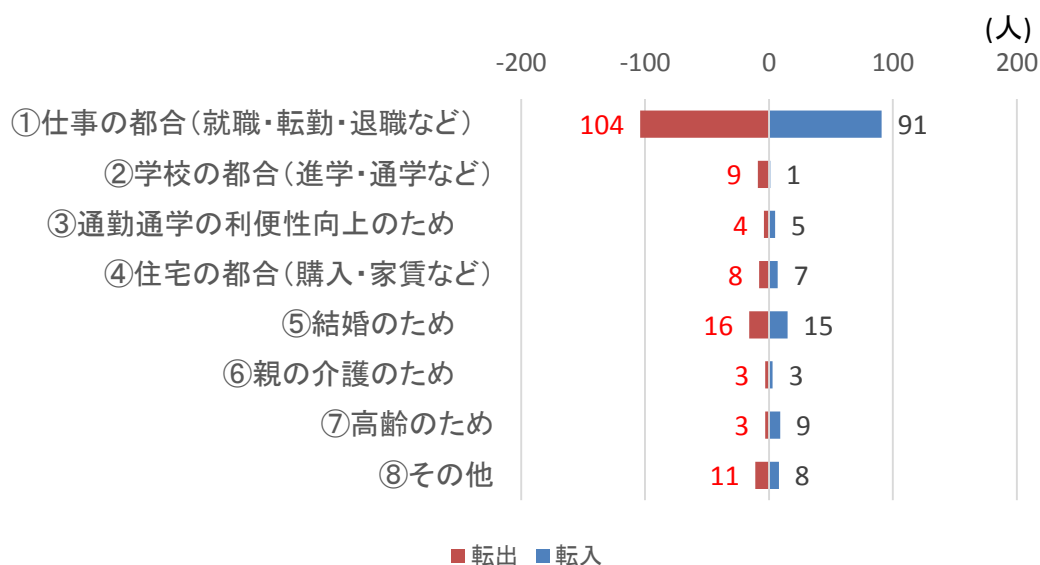


図 3-93. 転入と転出の主な理由（複数回答可）

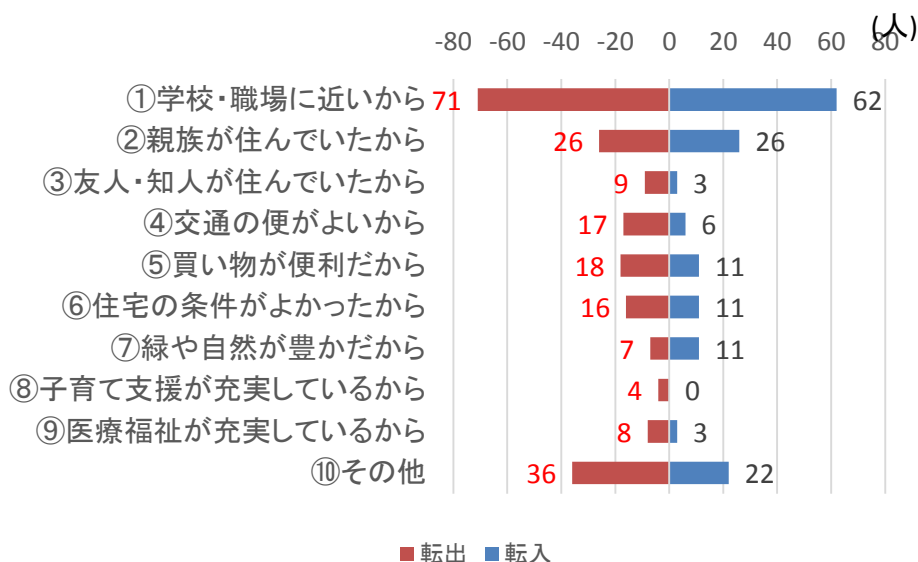


図 3-94. 転入先として富良野市を選んだ理由（複数回答可）と転出先として現在の居住地を選んだ理由（複数回答可）

③転入元と転出先

アンケート結果から、道内各市町村との転入、転出の状況を集計した(図 3-95)。トータルでは転出超過であり、その主な行先は、旭川市、札幌市、美瑛町であった。

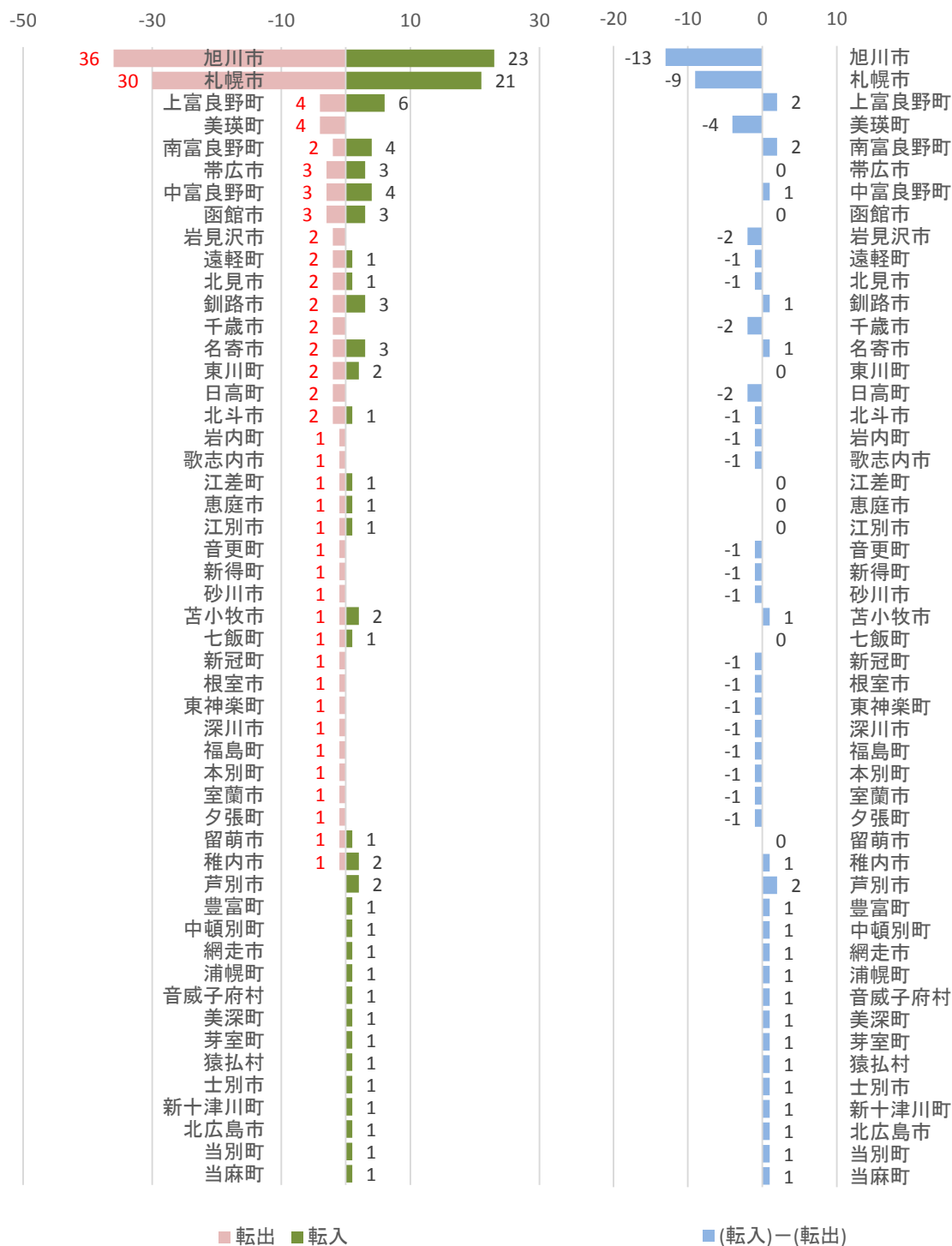


図 3-95. 転入元と転出先

転出入者アンケートのまとめ

- 転入者と転出者の属性は似ており、大きな流れとしては、同じような属性の人が毎年出入りしているものと思われる。転出入の主な要因は、仕事、結婚、であった。
- 富良野市は全体としては転出超過であり、差し引きで転出者が多い市町村は、旭川市、札幌市、美瑛町であった。
- 転出者が感じていた富良野の良さは、主に「自然の豊かさ」「人の良さ」「ほどよい利便性」と考えられた。
- 富良野市の利便性に対する評価は大きく2つに分かれ、のんびりした生活とのバランスの中で「ほどよい利便性」をポジティブに評価する人と、都会との比較において「不便である」と評価する人が見られた。